

第2回明海地区住民対象県立特別支援学校誘致に係る説明会 要旨

日時：令和6年1月14日（日）10：00～12：00

場所：明海南小学校体育館

参加者：地域住民・保護者等 計86人

説明者：浦安市教育委員会 8人

千葉県教育庁 5人

次第：1 教育委員会挨拶

2 県立特別支援学校の誘致における現在の進捗と今後の対応について

3 質疑応答

1 挨拶 (1) 浦安市教育委員会 浦安市教育長より

(2) 千葉県教育庁 特別支援教育課長より

2 県立特別支援学校の誘致における現在の進捗と今後の対応について ※詳細は別紙資料参照

<浦安市より>

○これまでの経緯と実施済み説明会の概要

・前回までに、経緯の詳細は説明しているため、経緯を簡易に説明

○明海中学校・明海南小学校の今後について

・平面図を用いて、特別支援学校と明海南小学校、明海中学校の配置を提示

・立面図を用いて、校舎利用イメージの説明

○明海中学校校舎環境改善工事について

・令和7年度から小中学校を同一校舎とするため、6年度より実施予定の環境改善工事の実施内容（案）を説明

※主な工事箇所は6箇所

○小中学校の施設利用・活動等の想定について

・体育館や校庭等、これまでの使用と異なる内容に関する説明を行う。

・上記のほか、今後の小中連携に向けた取組内容を報告する。

<千葉県より>

○（仮称）千葉県立葛南地区特別支援学校の設置に至った経緯

・特別支援学校の設置候補の選定に至った点を各観点から説明

・特別支援教育の今後の方向性の説明

○特別支援学校について

・特別支援学校の設置意義、障がいの種類や学部に関する説明

・特別支援学校の教室の様子に関し、写真を用いて説明

○（仮称）千葉県立葛南地区特別支援学校の概要

・現在想定している開校年度や学校規模（設置学部・対応障がい種）の説明

・スクールバス通学における登下校時の安全対策について、写真を用いた説明

3 質疑応答 (参加者…地域住民・保護者等 県…千葉県 市…浦安市)

【誘致の決定・経緯等について】

(参加者) 今回の誘致決定は、いつだれが決定したのか。また旧入船北小校舎（現まちづくり活動プラザ）が活用できると思うのだが活用は検討されたのか。活用できないならば、なぜできないのか。

(市) 県立特別支援学校の誘致については、市教育委員会が主導のもと誘致推進委員会を開き検討を重ねてきた。その報告をもって最終的に市長が決定した。また議会においても予算措置において承認を得た。

旧入船北小校舎の活用については、誘致推進委員会の中で検討された。現施設での活用が続いていること、整備できる教室数の観点から候補とはなり得なかった。根拠となる数については、1回目の説明会の資料を参考にしてほしい。

→ (旧入船北小校舎教室数について) 第1回目の資料には旧入船北小校舎の記載はありませんでした。令和4年度に実施した説明会において、美浜北小の数値が記載されており(資料17ページ)、旧入船北小の教室数は美浜北小の教室数と同数であるため、美浜北小の検討と同様の扱いとなることを、当時の説明会でも口頭で説明いたしました。同様の説明を今回もすべきでしたが、下線部の発言については誤りでした。訂正してお詫びいたします。

※令和4年度実施説明会の資料については、本要旨掲載ページと同じページに掲載されておりますのでご参照ください。

【改修工事について】

(参加者) 手洗い場の整備をするとのことだったが、トイレの改修は行わないのか。

(市) トイレの高さについては、家庭で使用している大便器の高さとほぼ同等なため、特別な改修は予定していない。

【学校施設の利用方法について】

(参加者) 体育館の利用の仕方について説明があったが、雨のときに校庭が使用できないため体育館を使用することになるなど、他のクラスとの使用において制限が生じないか。

(市) 明海中学校・明海南小学校に限らず、どの学校においても雨天のときは体育館が空いていれば使用したり、学習内容によっては中止にしたりすることがある。クラス数に余裕があるので雨天時も使用できる場合があると考えられる。

(県) 特別支援学校が使用する体育館についても、小中学校と共用できる部分と考えているため、小中学校が使用できるように市と県で協議していく。

【児童育成クラブ・放課後子ども教室（はっぴー広場）について】

（参加者）児童育成クラブの移転までのスケジュールと放課後子ども教室（はっぴー広場）はどのようなになるのか教えていただきたい。

（市）児童育成クラブは中学校側へ移設する予定で、令和7年度から新たな施設での生活を始めるにあたり、令和6年度から整備をする予定である。放課後子ども教室についても、新設する児童育成クラブ内に整備する予定である。

【避難所としての位置づけについて】

（参加者）明海南小学校・明海中学校は東日本大震災のときにも避難所として活用された。特別支援学校においては、災害時、特別な対応が必要となると思うが、地域住民だけでなく観光客も利用するかもしれない避難所としての学校施設についてどのように考えているか。

（市）特別な支援を必要とする方たちの避難について多くの課題があることは、今回の能登の災害においても報道がされている。それらのことも考慮して、地域の方々と交えながら体制を整えたいと考えている。

（県）特別支援学校が広域避難所となることを想定したい。今後は、コミュニティスクール（学校運営協議会）等で、地域の方々と考えていきたい。

【特別支援学級と特別支援学校の連携について】

（参加者）特別支援学級も残すとのことだが、特別支援学校との関わりなど、今後のイメージを教えていただきたい。

（市）特別支援学級を選択されている方々が様々な理由により選ばれていることは承知している。その実情を把握しながら、特別支援学校につなげられればと考えている。特別支援学級に在籍する児童生徒が特別支援学校の授業を受けることや、在籍自体を変更することなど円滑に進められるよう整えていきたい。

（県）特別支援学校の開校はみなさんの選択の幅が広がるものだと考える。特別支援学校への入学は就学相談で決めることになる。特別支援学校との関わりについては、特別支援学校にある施設（自立活動室や作業室等）を特別支援学級の児童生徒が使用したり、特別支援学校の児童生徒が小中学校の施設を使用したりするとともに、合同で販売会を開くなど、色々な方に関わっていただけるようご意見もいただきたいと考えている。

【インクルーシブ教育の推進について】

(参加者) インクルーシブ教育を進めたいという意向があるのならば、特別支援学校を作るのではなく、特別支援学級を拡充することによって対応すればよいのではないかと。また、今回の誘致によって、明海だけのインクルーシブ教育の推進ということになるのではないかと。

(市) 現時点でも各学校において特別支援学級と普通学級の交流は様々な形で行われている。また、特別支援学校が担っているものについて、特別支援学級の拡充によって対応できるものではない。特別支援学校だからこそできることが多くある。なお、特別支援学校はセンター的機能を有していて、本市の教職員に研修等によって特別支援教育を実際に広めていくという役割もある。

(県) 特別支援学校の設置は全県的な視点に立って決定している。また設置する際は、その学校の近辺だけのことを考えているのではなく、地域全体のインクルーシブ教育を考慮している。地域との交流を深めてご理解を得ながら開校を迎えたいと思っている。

【今後の説明会や地域住民・保護者との意見交換について】

(参加者) 今後、小中学校の保護者や地域住民に対し、懸念している内容や今後の対応等、どのようにコミュニケーションを図っていただけるのか、具体的にお示しいただきたい。

(市) これまで複数回にわたり説明会を行い、みなさんからご意見等をいただいていたところだが、さらに、2月に開催される明海南小学校の保護者会後に説明をさせていただく。今回と同様の説明とはなるが、そこでご意見を伺いたいと考えている。その場で回答できないものもあるかもしれないが、その点ご理解いただきたい。ぜひ一緒に考えていただきたい。

(県) 市と共に2月の説明会に同席したいと考えている。より良い学校となるよう進めていきたいと考えている。